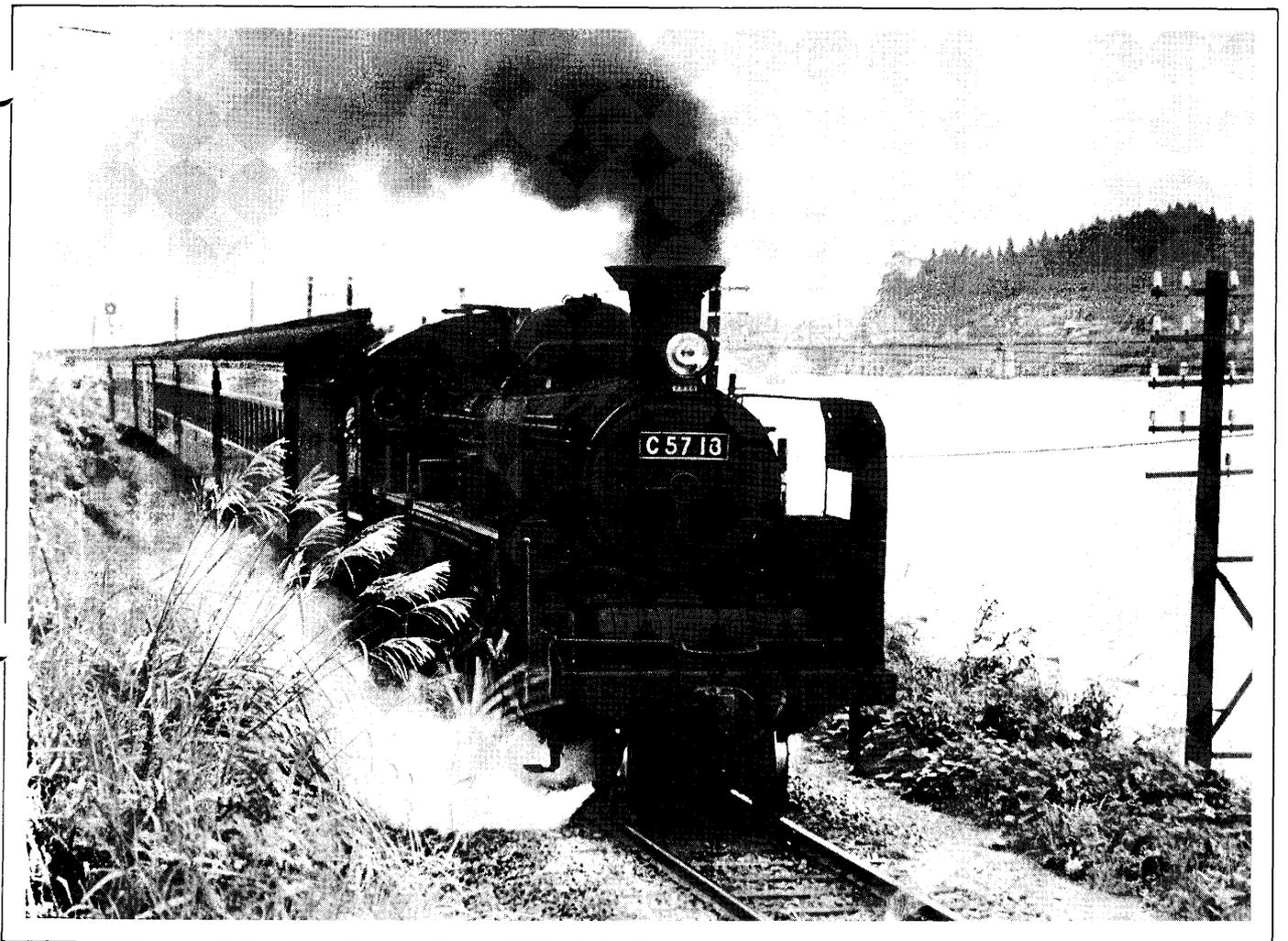


# 臥龍が丘は緑なり

松高同窓会東京支部会報

平成7年(1995)新春号





# 新年のごあいさつに寄せて

## 猪突猛進 !! ? よいではないか !



東京支部長 佐伯 益一

まず、会員ならびに関係者の皆様が、お元気で新春を迎えられたことをお慶び申し上げます。併せて昨年内、お亡くなりになった方々にも謹んで哀悼の意を捧げたいと存じます。

さて、東京支部においては、平成6年は誠に平穩無事、大過なく過ごすことができました。予定された各種行事も大きな成果をあげることが出来、同窓会の輪が一段と強まったことを嬉しく思うとともに、これもひとえに会員各位の深い御理解と御協力のおかげと深く感謝している処であります。

それにしても国政の面においては混乱が相次ぎ、多難がありました。永田町の皆さんは常日頃、一体何を考えているのかと屢々疑問に思います。外交問題や税制改革、行政改革等、多くの難題、懸案をかかえている時、頼まれもせぬのに対外援助、円借款供与とかの大盤ふるまい、外国への諂い、おもねり、国益を軽んじ、党利党略、我利我欲を優先、ひたすら権力斗争に明けくれている現状に、只々、あきれざるばかりか腹の立つことばかりです。

然し言いたい事は山ほど有っても、この会報は同窓会誌である以上、これ以上は政治向きの事は論ずるべきでないとも考えますので、話を本題にもどします。

私が支部長に指名されたのが昭和58年の大会、すなわちイノシシの年でした。丁度ひと巡り経た、長いようでもあり、短くもあつた12年で、只ひたすら、がむしゃらに精一杯やって参りました。御批判もあることとは思いますが、私としては同窓会を何とか軌道に乗せることが出

来たと聊か自負もしている処であります。顧りみて例年の大会を始め、いろんな行事など只、良かった、良かったと喜んでばかりはいられないと思います。人は年々老い、去ってゆきます。現状のまま推移すれば同窓会は益々先細りになってゆくと心配の種でもあります。何となれば、旧中学、高女卒の皆さんが熟年化してゆく今日、失礼ですが将来への期待は極めて薄く、どうしても高校卒の皆さんに望みを託す以外にないのでありますが、あとに続く人、即ち新入会員の数が少ないのです。支部長就任以来、相当、数は増えましたが、卒業生の数、首都圏に居られる人の数から云えば、まだまだ少ないように思います。

そこで支部では、多くの同窓を勧誘し、手をつなく輪を拡げ、友情の絆を益々強めてゆこうと組織委員会を設ける事に致しました。役員や会員が全員一丸となって同窓を誘い、そして語らい、楽しむべきと決意した訳です。それこそ イノシシの如く猛進すべきであり、つまづいたり、石にぶつかっても良いではないか。とにかくやろうと決めたわけです。同窓会の原動力は申すまでもなく同期、同級会です。本会報が「クラス会便り」や「お便り」を重視し優先的に掲載しているのも、その観点に立っているからであり、表紙に驚進するSの写真を取り上げたのも決して意味のないことではない筈と思ったからであります。是非、皆様の御協力をお願いします。皆様のご健康と御多幸を祈り、本年も何卒よろしくと、お願い申しあげ御挨拶に代えます。

### 新年おめでとうございます

旧年中はいろいろと有難うございました

本年もよろしくお願い申し上げます

平成七年元旦 (1995)

新潟県立村松高等学校同窓会東京支部役員一同

☆ ..... ☆

(表紙写真について)

阿賀野川に沿う磐越西線、津川、三川間を驚進するSL (Steam Locomotive—スチーム、ロコモティブ)。C5713は昭和44年12月に引退したが、その直前の姿と思われる。後方に、かすかにキリン橋が見える。煙でキリン山は見えない。この写真は同窓の元新潟日報社取締役の五十嵐喜作氏にお願いして、同社より提供をうけたものである。

ちなみにCは動輪が三つ、D51やD52は動輪が四つ、EFは電気機関車でFは動輪が六つという意味である。



## 第37回東京支部大会



老生徒ならべて校長緊張し

平成6年度・同窓会東京支部大会は6月4日上野“池之端文化センター”で午後3時より開催された。快晴、気温29度と真夏を思わせる暑さの中、母校から茂野会長、徳橋校長、江口、伊藤両先生の来賓をお迎えし、会員105名の出席をいただき大盛況裡に終わることができた。

第一部では「平成5年度活動経過及び会計報告」「支部会則」説明、「会計監査報告」が全会一致で承認された。

続いて支部長挨拶、来賓の祝辞などプログラムに添って進行、恒例になった“ふるさと”の合唱で、遠く過ぎ去った日々を思い出しながら第二部の懇親会へ入り、乾杯のあとアトラクションでは「北区新潟県人会おけさ会」の方々に“佐渡おけさ”などを踊っていただき、出席者も加わって、ところ狭しとばかり輪が広がり最高の雰囲気となった。

ジャンケンゲーム、抽選会と続き、卒業期別最多出席者数が発表された。

栄誉ある第一位は高8回、第二位、高10回、第三位、高12回で、一位と二位は佐伯支部長より表彰され記念撮影をした。毎年多勢の方を、出席に導かれる熱意と動員力、母校愛に敬服すると共に、各年度の方々のなお一層の奮起を期待したい。

校歌、応援歌を声高らかに合唱し、学校時代を思い浮か

べつつも時間は容赦なく過ぎてしまい支部長の手締、校長先生の万歳三唱で盛況のうちに大会の幕を閉じた。

出席者の皆さん、寄付して下さった方々、抽選会の景品をお持ちいただいた皆さん、準備から後片付けまで終日、一生懸命働いてくれた幹事の皆さん、本当にありがとうございました。なお、平成7年度・支部大会は、6月3日“浅草ROX”に予約しました。一人でも多くの方々をお誘い合せの上ご出席をお願いします。

尚、津川高校同窓会関東支部長、渡辺 貞夫氏（津川町）および同幹事、波田野 亮一氏（加瀬町、浅草長屋常務）より御丁寧な祝電をいただきました。誌上を借りて、厚く御礼を申しあげます。（広報部）



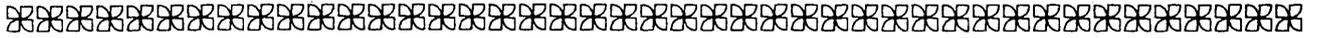
支部長も神妙な顔で輪に入り



老いてなおますます杜 輪をつくり



粋なこと艶ありオケサ踊る人



## 支部大会出席の皆さん（敬称略）

### ◎旧中の部（23名）

水尾広吉、小田恕哉、見方謙策、佐久間精一、横松宏平、亀嶋 謙、中村倉吉、堀 哲二、松田長四郎、芳原英男、宮 健三、伊藤英男、西山莊平、中野博、佐伯益一、奈良泰夫、五十嵐一郎、佐藤豊夫、伊藤勇五、芳賀健一、加藤三代太、瀬倉 薫、高久貞夫、

### ◎旧高女の部（10名）

大橋也子、中野美代（松葉）、岡本和子、小林早月、佐藤玲子、鈴木節子、一氏愛子、原ヤス子、佐藤幸子、新保清子、

### ◎高校男子の部（56名）

篠川恒夫、青木 猛、松田茂夫、杵渕政海、丸山貞次、梁取正通、堀川俊郎、斎藤慶五、関 孝世、渡辺八郎、瀬倉武志、亀山知明、伊藤勤吾、鈴木多喜男、大江佳一、木村時也、下野文幹、大島惣四郎、鈴木健司、弦巻 等、大橋俊夫、沢出越允、佐久間英輔、五十嵐 健、畔田昭義、八木又一郎、近藤英洋、高山幹雄、塚田勝、山崎輝雄、吉井 清、佐藤匡秀、関 和世、伊藤 馥、堀 直昭、関塚 豪、鈴木輝雄、石黒四郎、増田訓英、鶴巻 浩、大橋貞夫、関谷雄二、米山正祠、宮沢正由、中川善隆、滝沢信喜、田代信雄、佐藤 越、安中啓作、佐々木秀三、安部 実、笠原 久、武藤正昭、笠原静夫、三室茂和、宮崎信次、

### ◎高校女子の部（16名）

深見洋子、片柳ムツ、木村孝子、山西愈佐子、波多ミサエ、久我マキ、高瀬笑子、福田ジュン、小島典子、真水道子、山下由紀子、佐久間順子、近藤燦子、中島和子、渡辺厚子、徳永道子

### ◎来賓の部（4名）

同窓会長 茂野敏郎（旧中17）  
校 長 徳橋時男  
担当職員 江口 昇（高3）  
事務局 伊藤ヒサ

◎計 男子79名 女子26名 合計105名 来賓 4名  
おけさ会8名 総計117名

### ◎景品のご寄付ありがとうございました！！

大会のアトラクションとして抽選会の景品のご寄付をお願い致しました処、多くの方から“越の寒梅”を始め、ウイスキー、清酒、宝くじ、テレホンカード、食品、その他たくさんの景品が寄せられました。お蔭で大会が盛り上がりました。厚くお礼申し上げます。発表は寄贈者の氏名のみにて商品名は省略させて頂きました。

#### （1）抽選景品 男子22名 女子7名 41品

小田恕哉、中村倉吉、堀 哲二、宮 健三、武藤三郎、佐伯益一、奈良泰夫、伊藤勇五、篠川恒夫、関 孝世、沢出越允、塚田 勝、大橋貞夫、鶴巻 浩、田代信雄、山崎輝雄、関谷雄二、関 和世、鈴木健司、梁取正通、米山正祠、増田訓英  
岡本和子、小林早月、佐藤玲子、鈴木節子、深見洋子、小島典子、真水道子

（2）津川高校同窓会関東支部長、渡辺貞夫氏より菓子折（ハトサブレ）5ヶ

（3）ジャンケンゲーム商品として“新潟の赤い酒”3本、「佐伯賞」として支部長から優勝者3人に、上記何れも敬称は略させていただきました。

## 第37回東京支部大会収支決算書

平成6年6月4日 於 池之端文化センター

収入の部			支出の部	
大会会費		893,000	通信費	60,464
男子79名@9,000	711,000		準備会費	65,149
女子26名@7,000	182,000		大会費	807,153
祝儀		50,000	会場支払	647,351
同窓会本部	40,000		持込洋酒代	26,769
安塚高校同窓会	10,000		記念品代	56,502
			来賓土産代	16,531
			謝礼	60,000
			交通費	8,800
			雑費	12,967
計		943,000	計	954,533
一般会計より		11,533		
合計		954,533		954,533



## ありがとうございました。

### ①平成6年度会費納入の皆さん(其の一)

#### 旧中の部 (64名)

相田和平、相田幸四郎、相田忠亮、安中盛介、五十嵐一郎、伊藤秀男、伊藤勇五、板垣文平、小田恕哉、岡村嘉志、落合常雄、加藤 豊、加藤三代太、片桐賢太郎、亀嶋 謙、熊倉 悟、小島哲衛、小島真一、小柳 実、佐伯益一、佐久間精一、佐藤豊夫、斎藤和男、斎藤誠七郎、斎藤朝之、坂井太郎、式場俊三、関山健芳、高久貞夫、団 順一、千代国一、寺田徳和、寺田徳隣、中野博、中村倉吉、奈良泰夫、中村市雅一郎、二平 晶、西山莊平、芳賀健一、波田野義孝、福原平八郎、藤原良造、堀 哲二、松尾昭夫、松尾 貢、松田長四郎、丸山一夫、丸山祐平、見方謙策、永尾広吉、宮 健三、宮本昇、三田虎治、武藤三郎、矢部五郎、山口三郎、山崎正男、横松宏平、吉田正平、吉田公男、芳原英男、渡辺文男、渡辺方夫

#### ◎高校男子の部 (102名)

青木猛、青木敏和、新井康夫、安中啓作、安部 実、(五十嵐健、伊藤勤吾、伊藤 馥、石黒四郎、梅田久次、(小野里康典、大江佳一、大島惣四郎、大橋秀雄、大橋俊夫、大橋貞夫、大西範孝、奥津嘉雄、笠原 久、笠原静夫、笠原大四郎、金子鶴男、亀山知明、川合敏男、川村莞爾、木村時也、岸谷 武、杵渕政海、剣持常泰、小池生夫、小日山芳栄、近藤英洋、近藤尚志、(佐久間英輔、佐々木秀和、佐々木秀三、佐藤匡秀、佐藤 越、斎藤勝三郎、坂井俊昭、桜井 貫、篠川恒夫、(沢出越允、坂上卓夫、斎藤慶五、新保 優、下野文幹、杉山 喬、鈴木健司、鈴木多喜男、瀬倉 薫、瀬倉武志、関 孝世、関和世、関塚 豪、関谷雄二、田代信雄、高岡雄三、高地一郎、高地 彰、高橋研治、滝沢信喜、高山幹雄、田代幸夫、塚田 勝、土田 猛、坪谷次郎、鶴巻 浩、弦巻 等、寺山和夫、中川善隆、中村雅臣、長沢友次郎、成海正弘、二宮文三、根本俊夫、(畔田昭義、広田達衛、堀 直昭、堀川俊郎、増田訓英、松尾真一郎、松尾了、松田 博、松田茂夫、松井 孝、丸山貞次、松尾保司、三室茂和、宮崎信次、宮沢正由、武藤正昭、村川五郎、八木又一郎、梁取正通、山崎輝雄、山田一男、吉井清、米山正祠、渡辺八郎、近藤毅夫、山中 孝

#### ◎旧高女の部 (20名)

石井洋子、一氏愛子、内田道子、大橋玉枝、大橋也子、岡本和子、熊倉芳枝、小林早月、近藤昌子、近藤玲子、佐野幸子、新保清子、鈴木節子、田村ミツエ、原ヤス子、藤崎トヨ、堀 和子、丸山セイ子、村田瑠都子、渡辺ミツ

#### ◎高校女子の部 (50名)

荒井るり子、飯利 幸、池田智子、小沢幸子、緒方康子、緒方美恵子、大野靖子、岡野斉子、大橋マツエ、加藤久子、片柳ムツ、神田正子、木村孝子、久我マキ、熊倉悦子、小島典子、近藤燦子、佐々木恵美、佐藤八重、斉木明子、斉藤英子、(坂爪圭子、佐久間順子、(島田淑子、白石キヨ、鈴木則子、田中富子、滝沢美恵子、高瀬笑子、寺山征子、出口テル、徳永道子、中島和子、波田ミサエ、(馬場淑子、(原田良子、深見洋子、福田ジュン、真水道子、升本久子、松尾和子、(松本豊子、宮川陽子、森川弘子、山岸もと子、山下由紀子、山西愈佐子、横溝田鶴、吉井祐江、渡辺厚子

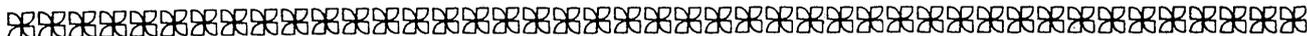
以上合計 236名 (10月6日現在)

### ②平成6年度寄付金納入のみなさん(其の一)

#### ◎男子の部 (80名)計215,000円

20,000円 亀嶋 謙  
10,000円 伊藤淳一、酒井邦男  
8,000円 笠原静夫  
7,000円 中村倉吉、堀 哲二、奈良泰夫、広田達衛、小日山芳栄、坂上卓夫、長沢友次郎、山崎輝雄、笠原 久  
6,000円 伊藤勇五  
5,000円 堀川俊郎、堀 直昭  
3,000円 木村時也、沢出越允、大橋俊夫  
2,000円 関山健芳、松田長四郎、芳原英男、武藤三郎、熊倉 悟、西山莊平、伊藤秀男、剣持常泰、佐藤豊夫、川合敏男、金子鶴男、鈴木健司、佐々木秀三、寺山和夫、杉山 喬、中村雅臣、桜井 貫、武藤正昭、  
1,000円 横松宏平、中村倉吉、堀 哲二、宮 健三、佐伯益一、伊藤秀男、中野 博、西山莊平、芳賀健一、高久貞夫、瀬倉 薫、篠川恒夫、青木 猛、堀川俊郎、丸山貞次、梁取正通、杵渕政海、関 孝世、渡辺八郎、亀山知明、小池生夫、瀬倉武志、鈴木多喜男、大江佳一、鶴巻 等、鈴木健司、近藤英洋、高山幹雄、塚田 勝、山崎輝雄、佐藤匡秀、関塚 豪、石黒四郎、増田訓英、弦巻 浩、大橋貞夫、中川善隆、関谷雄二、滝沢信喜、田代信雄、佐々木秀三、宮崎信次、木村時也

氏名の重複している方は会費振込の際の寄付、および大会当日の寄付によるものであります。



◎女子の部（18名）計50,000円

7,000円 滝沢美恵子

3,000円 大橋玉枝、岡本和子、小林早月、佐藤玲子、  
鈴木節子、一氏愛子、深見洋子、木村孝子、  
山西愈佐子

2,000円 熊倉芳枝、横溝多鶴、新保清子、内田道子、  
白石キヨ、寺山征子、小島典子、真水道子

以上男女合計98名、金265,000円 9月30日現在、何れも  
敬称は略させていただきました。

## 同窓会本部総会

恒例の母校同窓会本部総会が8月17日（水）午後4時より村松町“新滝”で開催され、東京支部から佐伯支部長、中村事務局長、伊藤、石黒、鶴巻、深見の各幹事、計6名が出席いたしました。議題は、さしたる事もなく、只、役員改選で茂野会長が再任された事ぐらいでした。あとは懇親会。二次会は“木むら”で、私共は遠来の客ということで三次会ではとうとう五泉まで付き合いさせていただきました。同窓会はいくつになっても懐かしい人に会えて、楽しいものだと思います。（深見）



旧校舎もってゆきたや明治村  
鶴巻 浩(高10回 作)

### ちょっといい話（1）

懇親会で乾杯の音頭取りを指名された佐伯支部長、茂野会長に再任おめでとうございませうと言ったあと、東京支部では役員はみんな、死ぬまでやれと言われていた。茂野会長もいつまでもお元気で死ぬまで会長を続けて頂きたいとお祝いだか強要ともつかぬあいさつ。これには茂野会長も思わずニガ笑いでした。

### ちょっといい話（2）

懇親会の席で久しぶりということ、多くの同窓の皆さんが佐伯支部長のところへお勤に来られます。話を遮られる支部長“すみませんちょっと分間だけ待ってください”と。話を終えて“アアお待ちいたしました”と盃を差し出す。そんな支配長の前に3人も4人も、ビールやお銚子を持った人達が列をなしていました。感心しました。

## 平成7年度支部大会のお知らせ

平成7年度（第38回）松高同窓会東京支部大会を

6月3日（土）午後3時（受付2時）より浅草一丁目（国際通り）

ROX内ニューオータニで開催いたします。

今回は全員、椅子、テーブル席となりますので、ゆっくり懇談、お楽しみいただけることと思います。近くになりましたら御通知いたします。又、通知が届かなくても、多くの方々をお誘いあわせの上、御出席くださるよう、お願い致します。



## お便りの中から

其の一

◎去る6月4日には東京支部大会にお招きいただき、大変な歓待を賜り、誠にありがとうございました。

大会は、いつもながらの盛会であり、趣向を凝らした運営に驚嘆いたしております。私にとりましては、三回目の出席となり

ましたため顔見知りの方も増えまして大変愉快的半日を過ごさせていただきました。これもひとえに佐伯支部長さんはじめ役員の方々の心を会わせた運営の妙と、ご参会の皆様の雰囲気盛り上げようとなさる言わず語らずのうちのご配慮によるものと深く感謝申し上げる次第でございます。

おかげさまで多くの方々とお話をさせていただく機会に恵まれ、たくさんのお示唆に富むお話を伺うことができました。お話のゆきつくところは、母校松高への思いであり、後輩に託す希望であったように思いました。皆様の切なる思いを窺い知ることができ、心を新たにしました次第でございます。

それにしましても、同窓の誼とは良く言い得たものと思えます。在学当時を振り返れば、傍にも近寄れない先輩諸氏と遙かな後輩とが、時空を超えて通学したあの道、この道を語り、往時の恩師や先輩を語り、同級生の消息を語り合う。語り合ってみれば何かしらの地縁、血縁につながっていたり、同じ恩師に教わっていたり、その恩師のエピソードが飛び交ったりして会話は尽きるところがないようであり、それが今日の慰めとなり明日への糧へとつながって再会を期してのお開きとなる。当分の間は多忙の中にも、ふとその折のことを思い出して心穏やかになり、その思い出が薄れかけてきた頃にはまた同窓会が開催され、記憶が次々に甦り、忘れかけていた少年の頃を鮮明にさせてくれる。何とも羨ましくも楽しい一時でございました。私も豊かな気持ちで一杯になり、翌日帰郷いたしました。ありがとうございました。

感謝の気持ちを充分には述べ得ませんが佐伯支部長さんはじめ役員の方々の今後一層のご健勝、ご多幸を祈念申し上げますと共に東京支部の益々のご発展を祈念申し上げます御礼とさせていただきます。(後略)

(村松高校 校長 徳橋 時男)



◎過日は松高同窓会第37回東京支部大会にお招きを頂き有難う御座いました。

「松高同窓会の輪を拓けよう」のワッペンから始まり「緑濃き臥龍が丘に」「ふるさと」の合唱、故郷に思いをはせ、松高をしのび、そして若き頃の血を奮い起こす。思わず感動を憶えました。また余興の佐渡おけさなどの踊りもさることながら、踊り子の皆様が新潟県出身だと聞き、まさに輪が拓がりつつあることに感服いたしました。さらに私事ながら高3回卒の渡辺氏、関氏、伊藤氏、亀山氏、そして竹馬の友 瀬倉氏と旧交を暖めたことは感激でございました。

支部長様はじめ幹事様のご苦勞に深く敬意を表しますとともに、今、母校に奉職している一人として微力ながら充実した学校になるよう務めなければならんと肝に命じた次第です。数々のおもてなしを戴き、厚くお礼を申し上げます。末筆ながら東京支部の益々のご発展と支部長様はじめ幹事様、会員一同様の更なるご健勝を祈念申し上げます御礼といたします。

(村松高校同窓会担当教諭 江口 昇)

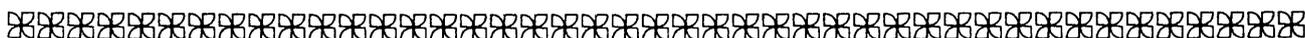
◎過日は、色々のご配慮をいただき、本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。本当に懐かしい皆様にお会い出来、楽しい一日を過ごさしていただき感激いたしました。東京支部の益々の御発展をお祈りいたします。

(村松高校同窓会本部事務局 伊藤ヒサ)

◎時下ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。私は平成6年度から柏崎高校長として赴任しております。柏崎も村松同様同窓会の活動が活発で関西、東京、新潟に支部があり独自の事業を行っております。8月6日には県知事を迎えて総会を開催しました。「臥龍が丘は緑なり」ユニークな表紙で感心しました。貴支部のご発展をお祈りします。

(前村松高校長、現柏崎高校長 佐藤 義雄)

◎「臥龍が丘」No.17を頂戴しまして有難うございました。佐伯先生お元気で御活躍の程、心からお喜び申し上げます。私も松高を離れて四年目をむかえ、生徒の「大学進学」乍りを念頭に教員最後の年をあわただしく送っております。六月になると松高同窓会幹事として茂野会長、三代の校長のお供をして東京支部にお邪魔した事が思い出されます。連続七年間、佐伯先生の大声、幹事の方々の温かい顔、羽沢ガーデンの生徒演奏の「緑濃き…」に涙を流して泣かれた大先輩達の「しわ」顔々、



皆、昨日の事のように。特に8年前「東京支部万才」の最中、時を同じくして私の実父が他界しました六月十四日が鮮烈な思い出です。とまれ、私の敬愛する茂野会長さんのお供は誇らしくなつかしい「思い出の宝」です。

4月23日、村松日枝神社で昭和16年国民学校入学の約100名が集い還暦の会が開かれ、皆万感を胸に、語り、飲み、「もーぐれ」しました。平成7年3月、38年間の教員生活を終わります。東京支部が知らず知らずのうちに同時に還暦を迎えた雲村氏や広田氏の「心のより処」になっているような気がしました。佐伯先生（先に生まれた大先輩）どうかこれからもお元気で東京からの虹の輪をひろげてください。お願いします。これからもお送りくださる希望をもって郵送料を同封いたしました。

（元村松高校教諭 高5回卒 酒井 邦男）

※一万円同封、寄付金として処理させていただきます。（支部会計）

◎先日は沢山のオタフク商品をお買い上げいただきまして本当にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。早速にお礼状を差し出すべき所、手前勝手にも多忙のため大変おそくなり申し訳ございません。

佐伯様より早速に社長宛に御丁寧な御礼状をいただきありがとうございました。社長自ら私も見せてもらい、また総務、人事部始め各部課に回覧して、おたふく応援団が増え、社員一同感謝致しております。（中略）おかげさまでオタフク落成祝賀工場見学会も五日間、3,300名来場、お好み焼、たこ焼、焼肉、飲み物と食べ放題、この齢で私も若い社員にまじってオタフクのハッピを着て頑張りました。大盛況に終わりホットしたこの頃です。

（中略）バブル以来の不況つづき、政治の不安定、円高も先を知らずの今日この頃、日本はどうなるの？愚かなる私まで考える時代かしら、国際的にもマイナス思考のような気がしますが、これからは思いやりのある心をもってプラス思考でと念じております。（後略）

（高3回卒、在広島市、白石 キヨ）



おたふくがオタフクを持ち右、ひだり

◎先日の同窓会は大変ご苦勞様でした。腰のイカレている小生は 飲み食いとお抽選会の時以外は、もっぱらロビーのソファを愛用していましたが先輩方のお元気な様子には感心いたしました。会場の楽しげな様子を聞きながら情けない思いでした。総じて若い衆が「疲れた、疲れた！！」と云っていたようでした。全く驚くべき現象です。

ところで深見さんに素晴らしい文章を書いていただき深く感謝して居ります。お陰様で持っていった画集20冊は全部売り切れました。ほとんどが押売だったかも知れませんがこの際二千円也の出費は、その内「幻の本」になるはずですから なんとかカンベンしてもらえるかも知れません。ありがとうございます。それから二本持っていった筆ペンが帰って来たら三本になっていました。広報部か、佐伯様愛用のものが紛れ込んでしまったようです。筆ペン代同封します。残った金子は広報部会のとき、酒、サカナなど調達してください。さらに残った金子は皆様で海外旅行ナドに…？

（後略）

（高8回卒、在伊東市、堀 直昭）

※ご送金の五千円は寄付金として処理させていただきます。（支部会計）

◎今年の支部大会も例年と同様に大盛況で三事に終わることが出来ましたのも支部長さんをはじめ幹事の皆様のお蔭と厚くお礼申し上げます。また今年のアトラクションは大変人気があったと思います。

私達が在学中の頃は秋の運動会となりますと きまって “佐渡おけさ” を中心に二、三回おどる事になっておりました。夏休みが終わりますと体育の時間は時計が読いたようでした。長い月日が過ぎまして今では頭のどこかに覚えているものと信じておりましたが、夏季には手とり足をとり教えられても中々マスターするのは難しいものです。でも皆様それぞれ、自己流ながらも輪に入って存分に楽しんでおられたようです。一晩 行にふれ、ふる里を偲ぶひとときに心の豊かさを感しさせられます。

（高10回卒 真水 道子 支部幹事）





◎毎度“臥龍が丘は緑なり”をご恵送下され誠に有難く、懐かしく拝読させて頂きました。東京支部の活発な同窓会活動の様子が伺われて支部長始め役員の方々の努力の賜と敬意を表します。同年代の先後輩諸兄のなつかしい名前やら、また斉藤朝之氏の予科練の記事など、私達の同級生で、杉崎栄二、皆川三郎両兄も予科練で亡くなった50数年前のことが思い出されて、タイムカプセルを開けているようです。(後略)

(旧中27回卒 在村松町 渡部 好雄)

◎(全略) 毎年、あれだけの大会を実行することに全く感服してます。幹事諸兄の協力にも感謝に堪えない、今後もよろしくお頼み申します。

(旧中22回卒 亀嶋 謙 赤山会々長)

◎同窓会のスナップ写真、落掌しました。当日の情景をまざまざと思い出しました。

(旧中20回卒、佐久間 精一)

◎こんにちは、(略) 同窓会には支部長始め幹事さんのお骨折りを頂き、楽しい一日を過ごさせてもらい喜んでおります。本当に有難うございました。(略) さようなら。

(旧中24回卒、芳原 英男)

◎会報有難うございました。皆様の様子がよくわかり、昔のことが思い出されます。

(旧中27回卒、在村松町 臼井 信栄)

## 母校生徒諸君の活躍ぶり！！

9月5日、母校を訪問した折、徳橋校長先生から母校生徒の活躍ぶりについて嬉しい報告を受けた。9月4日、北蒲中条町で行われた第20回下越陸上競技選手権大会高校の部400メートルで、小林克裕くんが50秒3の大会新記録で優勝、100メートルで 山田美樹さんが2位入賞。又、高校文化連盟の写真コンクールでは母校写真部が団体第3位に入賞したとのことであった。

何れにせよ、あらゆる部面での母校生徒の大活躍を大いに期待している処である。

後日、校長先生からお便りを頂いたがそれによると県下高校野球下越地区代表決定戦に於て9月12日、新発田高校と対戦10対6で快勝したとのこと、良かったなと思ったのも塚の間、続く15日の対新津工業戦では11対4でコールド負けと新聞に出ておりました。

残念でした。(佐伯)

◎年に一度の大会出席を何時も楽しみにしております。役員の皆様には いつもご苦勞をおかけしますが今後も宜しく願いいたします。

(高8回卒、在富士市、関 和世)

◎いつもお忙しい日々と存じます。又この度は第27回卒のクラス会のこと、種々御めんどうを煩わし、主人はまるで大船に乗った気分です。ところで、笑われそうな文章ですが先達て送って戴いた会報の表紙の高砂人形の写真を見て、迷々、書きたくなってしまいました。会報のウメクサになったらと思っています。今年古稀なので私共のクラス会を10月13日に咲花温泉の望川閣でやることになっています。何人集まるか分かりませんが楽しみにしているところです。

(旧高女19回卒、熊倉 芳枝)

◎私共、高12回卒の役員で、次回の総会まで いろいろ案を練りまして、誘いの連絡をしてゆきたいと思っております。どうぞよろしく

(高12会卒 近藤 燦子)

◎次の会報、19号で皆川さん、高松さんをご紹介したいと思います。よろしく願い申し上げます。

(旧中26回卒 斉藤 朝之)

◎先般は村松高校同窓会東京支部の集まりにお招きを賜り“ふるさとの味”をお目にかける光栄を得ました事は、ひとえに皆様の御援助の賜と感謝いたしております。(後略)

(北区新潟県人会おけさ会、会長、佐藤ミツエ)

※記事、お名前については、すべて敬称を省略させていただきます。ご了承下さい。一広報部



新聞に松高の二字たまに載り



寄稿

◎チャンチャコ・ババサマ

—会報17号表紙写真に寄せて—

旧高女19回卒 熊倉 芳枝

—昨年のも事だった。田舎の友達から、なつかしい故郷の山々の写真と小さなお宮さん、住吉神社に飾られる高砂人形の写真が送られてきた。私にとって口では云い表すことの出来ぬ程、嬉しい写真だった。たまたま、東京支部の会報の表紙にも、その写真がのっており、その人形がまだ健在で大事に守られていることを知り、びっくりしてしまった。

私の心はタイムスリップして、何十年前にさかのぼることになった。私の生まれ育ったところの直ぐ近くに住吉様というお宮さんがある。その夏の祭礼になると、等身大の高砂人形の翁と媼の人形が屋台に飾られる。私共は、この人形をチャンチャコババサマと呼んでいた。七月二十八日、住吉様の宵祭りになると、夕飯もそぞろに浮足立っている私の耳に“チャン、チャンチャン”と笛

と鉦や太鼓の独特な囃子が聞こえてくる。母の制止を後にしながら私は一目散にお宮さんに向けこみ屋台の一番前の席に坐りこみ、その囃子の合間に唄う口説きの言葉の面白さに、遂々暑さも忘れて笑いこぼしてしまう。

“チャン チャン チャンチャン”

「蟹にきんたま、はさまれたー」と。

情けないことに僅か六〜七才だった私の頭の中にはそれしか記憶をとどめていないが、とても楽しい思い出となっている。チャンチャコ、ババサマのこやかな顔に何とも云えぬ親しみを覚え、指折り数えて住吉様のお祭りを待っていた幼い日のことが、会報の写真や、友達からいただいた写真によって鮮やかによみがえってくるのである。そして今でも私の耳にその狂おしい音が奥深く残っているようである。

四十五年ぶりに村松町を訪ねて

佐藤 玲子 (旧高女25回卒)

あの猛暑からひと息ついた九月四日〜五日と東北自動車道経由で、なつかしいオラが故郷を訪れるバス旅行に参加して、ほんとうに、ほのほのとした気分になりました。

バスの中から、苅り入れ前の田んぼ、遠い山なみ、澄みきった碧い空を眺め、心が洗われる思いでした。飯盛山、柳津の虚空蔵尊にお参りして夕方には鹿瀬の“ホテル福泉”に到着、夜の宴会には、ふるさとの味に舌つづみをうち、又、みな様の多彩な芸や歌に魅了されて夜のふけるのを忘れて楽しみました。翌、早朝には老骨にムチ打ってきりん山に登り霧の中の阿賀野川を眺めてガラにもなく郷愁にひたり、一気に四十五年を取りもどしたような気が致しました。

滝谷の慈光寺参拝では、あの頃、学校から歩いて行った思い出話などが次から次へと湧いて出て話がつきませんでした。母校表敬訪問と今回訪れてみて、なつかしい寺

町通り、木村料理屋は、すぐにわかりました。それにしても街並が低く道巾がこんなに狭かったこと等々……。あの頃、橋田村から通っていた私には、もっともっと大都会の様な気が致しました。五〜三十年前の村松町に、しみじみと自分の年輪を感じました。青春の思い出がざっしりと詰った村松町、学徒動員、空襲あり、大火あり、悲喜こもごもの想いを築き、越後の旅をあとにした旅でした。企画してくださりました幹事の皆様、ほんとうに有難うございました。

※支部幹事会で発案され、直ちに実行となり、9月4〜5日バスを仕立て、戸田公園駅より東北自動車道経由で越後入り。翌日は母校を訪問し校長先生の出迎えをうけました。参加者は支部会員11名、支部幹事ファミリー5名、計21名でとても楽しい旅行会でした。

◎入学期が同じ旧中34回、高2回の同級会誌（松龍）の発刊に当って

高2回 篠川 恒夫

関東地区の松中34回、松高2回生の同級会が、昭和56年11月に東京四谷で開催されたのが第一回目でした。旧交を温めた席上で、何とかこの同級会を長く続けようではないか、出来れば今後は2年毎の一泊で、ゆっくりした

いものだとの意見があり、第二回が行われたのが58年11月、その際に、これからは会の名称があった方がいいと言う意見があり、母校の応援歌の中から「松城健児」「臥龍が丘」にちなんで「松龍会」というネーミングに

落ち着いたきました。そして、昨年（平成5年）5月、ニュートーキョーで開かれた第6回大会の席上で、松田茂夫君（五泉）から、折角、顔を合わせ、食べて飲んでお互いに近況を語り合う中で、何かメモとして残して置くことも有意義ではないだろうかと有志によびかけて戴いたことが、この会誌の誕生となり、タイトルも“松龍”となった訳です。

## クラス会便り

### ○旧中27回クラス会

旧中27回（昭和17年卒）のクラス会が9月28日、厚木飯山温泉、元湯旅館で開催された。出席者は東京を始め神奈川、千葉、新潟、五泉、村松、新津、津川、福島から馳せ参じた22名で例年並でした。冒頭、佐伯代表幹事から“中学卒業以来、己に半世紀を経た今日、古来稀にみる齢まで、よくぞ生きのびて来たものと感無量なり。我々には、もうあとが無い。出来るだけ多くの人に会い、健康で楽しく過ごしたい。あの世に逝けば、多様な勤めでまことに忙しいものだと聞く。楽しむのは今”と力強い挨拶があり、二平一男君の乾杯音頭で宴は始まり芸者衆五人を交え世の更けるのも忘れた大宴会であった。翌日は横浜港のあたりを見物、中華街で又一杯も二杯も飲み、元気な再会を約し解散した。このクラス会は毎年、通学地区別に幹事が決まり、平成7年度は五泉が当番となる。

（西山 莊平）

旧中27回クラス会によせて（佐伯代表幹事宛お礼の手紙の中から）

◎このたびの厚木の催し、何かとお世話になり有難うございました。酒よし、お湯よし、お酌の美人達も愛想よく、誰かが言っていた「とても七十のジジイどもの会とは思えぬ」ほどの盛り上がりでした。改めて幹事諸兄に感謝する次第です。さらに又横浜散策は前夜の飲みすぎを、なおしてくれ、中華街の昼食会をより楽しいものにしてくれました。（中略）

長生きしたものだと思ふ しかし今後のことを考えれば現状が一番若いのも事実、まだまだ面白いことに出会うかもしれない。老けこまぬよう ボケぬよう気をつけたい。吉田ドクターによれば大正13年生まれの子は少ないのだとか。少なくともあと5年は酒量が落ちぬようにしたい。

（在新潟市 五十嵐 喜作）

お互いに、戦前、戦中、戦後と貴重な体験をし、不幸にも何人かの友人を失いながらも生き抜いてきた我々にとって、還暦も過ぎ、人生の節目を感じさせる年代の中で、昔の思い出をたどり、お互いの健康を確かめながら近況の交換の輪を広げ、明日への活力として「松龍会誌」を活用し、皆で育てて戴くことをお願いしたいものです。

### ◎とにかく愉快だった

1.部屋に屯して、各人が己の病を語り、その病の特性を強調して、自己の存在を誇示してみせる。不思議なことに、これを自慢と感ぜず、共通の病として把え、互いに共感し合っている。酒を飲む、語る、のクラス会よりも、こちらの方が絵になったようだ。面白い年令の動向を見て、私はひとり悦に入った。

2.もう一つ興味のあった事は「中野に一刻も早く回復して、元気になってくれ」と念じ祈りながら、各人が明日の我が身に“覚悟”の念力を吹き込んでいる。その心理状況が手にとるように伝わってくることだった。

3.曾つての湯治場だった飯山温泉が、いやらしさを排除して 親切に さりげなく歓待してくれる点、やはり、もう一度、行きたくなる温泉の一つだ。芸者も、この状況に合った動きをしてくれるので、気分的に安まる、東京郊外にあること自体が、不思議だ。

4.「そんなに飲んでない」と異口同音に答えていたが、飲まぬ伊藤君を除いて、相当なものと感じるばかり。この度の会費はどう考えても安い一言だった。

5.ヒザにコシにと痛みを感じながらも、中国料理も美味だったし、西山君の“港”“海”へのノスタルジヤを感じさせる。コース、説明の仕方も、横浜そのものの説明よりも、彼の人生を語ってくれたようで、良かった。

6.普通高校で十年間“進学”一級校への“合格”と、ひたむきな受験指導をやって 教え子が五十の大台、四十



ひとせぶり 喰い歌いしハゲ白髪



の働き盛りの今、毎年二度、三度とクラス会に出てみるが、言い得ることは頭脳明晰と人生の豊かさは、比例しないと云う事だ。ひとそれぞれ、計算されない豊かさを持っている云う事だ。佐伯君に相当する言葉かも知れない。

延々と語るも、宗教について、歴史についての観想が共通して弱いことを発見した。

とにかく御礼申しあげます。合掌。

(在五泉市、安勝寺住職 田中 正紹)

◎松城同期会 (旧中33回、高1回)

入学時期が一緒の旧中33回卒(昭和23年)と高校第1回卒(昭和24年)の同期会が10月14日、新潟県、月岡温泉ホテル清風苑で2年ぶりに新津地区が幹事支部となって1泊2日の日程で行われた。

司会者の開会あいさつの後、幹事代表より歓迎の言葉、各地区代表の近況報告、会員の動静等が披露され、次期は2年後、東京地区が担当幹事となる事などが決められ、

遠路沖縄から駆けつけた仲間の乾杯発声で懇親会が始まった。秋の夜長を湯の香漂う月岡で酒に、話に、歌と、皆、時を忘れて過ごした。酒もたっぷり大盛会であった。参加人員は47名と前回より僅か下回ったが友の輪と情の重みは毎回同じである。同期生って良いもんだと、いつもつくづく思う。

(伊藤勇五)



四十七士 揃ったあとに何かがおきる

◎村松高女19回(昭和16年)卒クラス会

熊倉 芳枝

私共、村松高女19回卒のクラス会が古希の祝をかねて、去る10月13日、五泉市咲花温泉の望川閣で開かれました。素敵なおば様の集まりで、夫々の歴史をしゃべった方々ばかりでした。女の集まりは、まさしくお喋りに始まり、お喋りに終わると云うのか、話のつきないのが御馳走で実に楽しい会でした。すでに沢山のお友達が鬼籍に入られているのに、恐ろしいほど、年を重ねている

我々が、元気に集まったことに今更の様に感謝しながら時を過しました。

又、幼稚園から一緒だった方々とは〇〇ちゃん等と呼ぶことが出来、話をしている中に幼な顔が、ちらりちらりと出て来て数十年のへだたりが嘘のようにとびこえられ、何時の間にか私の口から村松辯がとび出しているような始末でした。そして時の流れが悠長な感じの村松の方々を見て、せせこましく生きて来た自分に又とない憩いの場を与えて下さったような気分になってしまい、これからは一日を一年と思っで大切に過してゆきたいと心に誓いながら、新潟をあとにしました。



古希なれど乙女に還るクラス会

◎旧中30回クラス会

旧中第30回(昭和20年卒)のクラス会が、8月27日、村松が幹事で新潟県湯田上温泉“ホテル小柳”で夫人同伴一組を混じえ、総勢37名が出発して開催されました。

温泉のキレイどころ10人が花と髪を添え、時間延長のサービスに全員決飲、痛飲、時間を忘れ、学生時代の思い出に浸りながら旧交を暖め、生きていることの喜びを確かめ合いました。二次会は同ホテルのカラオケバーで、歌の達者な仲間が多く揃っていて叱咤でも貸切り同様で大いに盛り上りました。中には一言中途で夜の五泉の街にくり出した勇者もおりました。(伊藤 勇五)



同期会 紅一点も数のうち

### ◎旧中26回（昭和16年）卒同級会

平成6年度は新津市在住の大原・井上・成沢の諸氏と五泉からも田村氏が応援に参加して幹事を引き受け、1年がかりの肝入りで4月30日風光明媚なきりん山温泉古沢屋旅館で開催された。午後6時の開宴には25名が集いお互いの健康を祝して乾杯、新潟から車で駆け付けたという4人のコンパニオンがすかさず宴会を盛り上げる。久しぶりに会えた快友・畏友そして怪友達との談笑は年甲斐も時間の経つのも忘れさせてくれる楽しいひとときである……。翌日の朝食後には解散したが、宿の玄関先では美人の女将から思い出にと椿の苗がひとり一人に手渡されたり幹事が顔を揃えて見送ってくれるなど、別れを惜しみながらも心の和む演出には新たな感激を覚えた。いろいろと苦勞をされたであろう幹事諸氏には、あらためて感謝するとともに同級会に参加できてほんとうに良かったとの思いである。

尚恩師の高橋十二郎・遠藤直・松田義亮の三先生には幹事から招待状を差し上げたものの高令のため或いは闘病中との理由でお一人もご出席されず残念の極みであった。ご長寿を衷心よりお祈り申し上げるばかりである。そして今回欠席の友人15名からコメントが届いていたが、10名もの人たちが病氣と戦いながら療養に専念していると知り同情の念を禁じ得ないところだが、十分な養生をされて一日も早く健康を取り戻されるよう祈ってやまない。

平成7年度は新潟市在住者が幹事となり既に企画検討中とのことであろうが期待するところ大である。今回東京地区からは大橋・武藤の2名だけの参加で寂しい思いであったが、今度こそこぞって出席できるよう願っている。

（武藤 三郎）



早く撮れ 正座のひざが痛み出し

### ◎湯沢でのクラス会

旧村松高女25回 吉原 敦子

今回のクラス会は、新潟地区が幹事で東京と新潟の間である“湯沢グランドホテル”で10月20日～21日に開催されました。村松からは6名、新しい交通機関である村松―新潟間の急行バスで出発、新潟で新幹線に乗り換え、そこで他地区の方々と合流して会場に着きました。会場では、すでに東京地区の方々も来ておられ、一氏愛子さん、岡本和子さん、佐藤玲子さん、鈴木節子さん、原ヤスコさんなどと、久しぶりにお会いして、再会を喜び合いました。

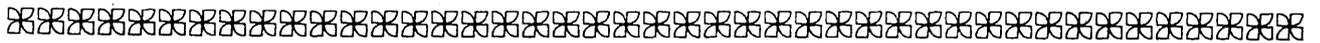
宴会時には、皆さんの要望で、稲垣久子さんが「佐渡おけさ」を唱い、私と渡辺由紀さんが踊りました。私達は敗戦時の女学生で、学徒動員や 勤労奉仕にあけくれて、修学旅行もなく、女学生らしい華やかさや、楽しみなど何もない時代でありましたが、熟年になって、皆顔を輝かせ、幸せそうに話したり、笑ったりしている姿は、ほんとうに「生きていてよかった」と実感させられました。今回、特によかったと思われたことは、一昨年のクラス会後に、死亡者がなく 黙禱をしなくてもすんだことでありました。二年後のクラス会も、又全員「元氣でお会いしましょう」と手を振りながら別れました。二年後は東京地区が幹事、「よろしくね」。

### 支部会員倍増への願いを込めて

たくさんのお便りを頂いて感謝しております。別掲でお知らせしてある通り、平成七年度の支部大会は6月3日に開催されますが、今回は会場が変わることもあり、従来にも増した大盛會を期待しております。

東京支部の存在を知らぬ方、所謂、喰わず嫌いの方も多くおられると思いますので、役員はじめ会員各位の格別なる御協力をお願いしなければなりません。案内状発送の基となりますので、同期、同級の方、お知り合いの方々のお名前、住所などをお知らせ下さるようお願いいたします。クラスには世話役的な人が必ず居るものです。支部大会まで、あと半年、各位のご連絡をお待ちしております。支部のモットーである“拡げよう松高同窓会の輪”を100%発揮する為にも、これはみんなの願いです。

東京支部 組織委員会



## 盟友 中村雅明君の氏を悼む

旧中33回卒 伊藤 勇五

肉親を問わず、身近な人の黄泉路への旅立ちを見送るのは悲しいものである。この処、累がりの深い人が続き、本当に辛い思いをした。去る7月、旧中第33回卒業の同期で、(株)ナカムラの社長である中村雅明君が斗病の甲斐もなく御親族の皆様に見取られ乍ら永眠された。7月11日通夜、12日告別式と訃報を聞いた時、我が耳を疑い、暫し絶句してしまった。

彼とは松高同窓会東京支部の役員同士であるばかりでなく、在京同期の気の合った仲間や旧高女の気の合う仲良し数名と年2回の旅行と、又、顔が見たくなれば誘い合い、茶を喫み、食事をともに楽しむという懇親の会を永い間続けてきたグループの仲間でもあるが、彼は常にこ

の集まりの中心人物であり、率先して、発案、企画を進めてきた無くてはならぬ存在であった。彼を失った今、このグループの次の目標は無いままである。しかしこのグループの存在が母校同窓会東京支部が年々枝を伸ばし 葉を拡げてきた蔭の根の一部でもあると彼を偲び乍ら、みんなで自負もしている。通夜、告別式には佐伯支部長始め多くの幹事仲間、友人が参列し、御霊よ安らかなれと御冥福をお祈りした次第である。合掌。



故 中村雅明氏

## お便りの中から

其の二

◎この度はまた、馴れないお仕事(会報のコピー)をお願いしまして恐縮に存じております。なにしろ新潟方面から友きたり、会う度に、話の弾みで、ついあげてしまうもので大方無くなってしまいました。マア、多少は東京支部の存在アピールの為に役立っているのではないかと自負はしておりますが 全部揃って、やっと同窓会員になれたようです。回を重ねる度に会報らしく、?なっていました。広報部の皆さんに感謝しております。

先日、白石さんから連絡がありまして、支部長に「くれぐれもよろしく」との伝言でした。支部長の名文?が回覧されたこと、社長ご満悦であったとか申しておりました。3回生の我儘お聞きいただき、ありがとうございます。重ね重ねお礼申し上げます。(後略)

(高3回卒 渡辺 八郎)

◎「臥龍が丘は緑なり」2号、3号お送り頂き、まことに有難うございました。

会報17号の末尾に“広報部よりのお知らせ”の記事を拝見、早速欠番を申し込みました所、望みが叶えられ、お蔭さまで創刊号より現在まで全部揃い、綴込みファイルが開眼した様です。老令になりますと、懐古趣味ではありませんが、私の育った歴史として村松中学の!!、友

人の!! 思い出の凝固であるこの会報を次の世代に送るメッセージとして申し送りたいと存じます。私にとっては、この会報の意味は誠に貴重なものであります。これを続けることは至難のことと存じますが、支部長始め広報部の皆様、お体にご注意下され頑張ってください。私に出来ることでしたら精一杯の協力を致します。取急ぎお礼まで。

(旧中24会卒 堀 哲二)

◎先般は支部会報17号をご恵送いただき、今回はまた、創刊号から13号までお送りいただきまして心から感謝しております。

創刊号冒頭の「とにかくにも、やってみよう」を拝読し、そのご苦勞に対して、改めて敬意を表します。さて、創刊以来の会報を拝見して、往時三々五十有余年を経て感慨また一入であります。恩誼をはじめ皆様の在りし日の写真、そして貴重な記事など、あまりの懐かしさに時間の経つのも忘れるほどでありました。お手数をおかけして恐縮でありました。厚くお礼申し上げます。東京支部の益々のご発展をお祈り致します。

(旧中26回卒、在黑崎町、中村市雅一郎)

## 寄稿

海軍航空機搭乗員となった剣持、河内、杉崎諸氏の話について

斎藤朝之(中28)

剣持三男也氏(中26)、河内正勝氏(中26)、杉崎栄二氏(中27)の話について、平成4年に「甲飛9期会」事務

局の土山牧群氏に照会したところ、剣持氏は戦死、河内氏は病没、杉崎氏は疾病により兵役免除とわかりましたので、以

下戦史などを参考に記してみます。  
三氏とも海軍甲種飛行予科練習生（第9期）の学科試験、身体検査、操縦適正検査に合格し、加藤政治君（中28、支部会報前17号で紹介）と共に、昭和16年10月1日、4人揃って土浦航空隊に入隊した。

◎剣持三男也氏（中26）

戦死年月日 昭和19年2月17日

（午前7時30分）

場所 トラック島

所属 第251航空隊（元台南航空隊）

機種 夜間戦闘機「月光」偵察員

甲飛9期の偵察練習生は、予科教程を1年2か月、同4か月、同6か月の3回に分かれて卒業し、本科教程の偵察術専修教育を大井空と鈴鹿空で受け、昭和18年8月から11月にかけて、420名が卒業した。

剣持氏は、偵察員として同年11月までには第251航空隊（元台南航空隊）に配属された。

この251空は、昭和17年11月の航空部隊編成改正で、第一線の航空隊は番号制に改称されることになり、当時ニューブリテン島のラバウルに進出していた「元台南航空隊」が改称されたものである。（200番、300番だいの航空隊は戦闘機隊を示す）

11月中旬、251空は戦力回復のため内地帰還を命じられ、年末に愛知県の豊橋基地において再建にかかった。司令には小園安名中佐、飛行長に中島正少佐、飛行隊長に向井一郎大尉（海兵63期、後に戦死）が任命された。

昭和18年5月1日、ラバウル進出が下令され、地上員、資材は輸送船最上川丸で出発し、同月7日ラバウルに入港した。飛行隊は、向井大尉を指揮官として零戦58期、陸上偵察機（後に夜間戦闘機に改造）7機でトラック島を經由し、ラバウル東飛行場へ進出した。その後ガダルカナル島、ルッセル等、レンドバ島方面へ転戦し、8月末までに零戦隊は、米軍戦闘機など約230機を撃墜したが、我が方も24人の搭乗員を失った。また、夜間戦闘機「月光」は、座席後方の斜銃（口径20ミリ機銃上方、下方各2挺）により、ボーイングB-17重爆撃機など大型機7機を夜間撃墜した。

そして251空は、9月1日付で零戦隊は除かれ、夜間戦闘機「月光」24機を定数とする夜戦専門部隊に改編された。



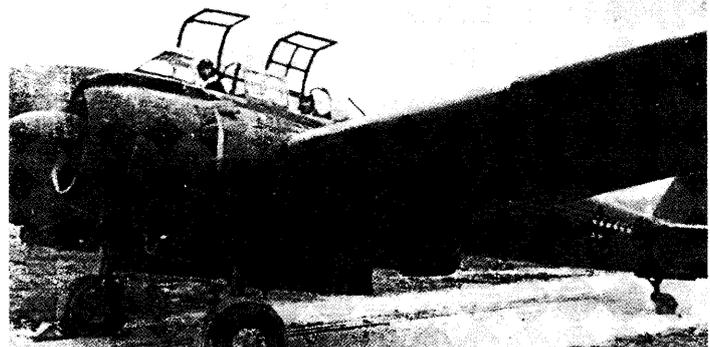
剣持三男也氏  
（中学5年次）



河内正勝氏  
（中学5年次）



杉崎栄二氏  
（中学5年次）



夜間戦闘機「月光」

昭和19年2月上旬、251空の主力はトラック島の楓島に転出したが、2月17日、18日の米機動部隊の攻撃を受け、在地の「月光」9機は壊滅した。剣持氏は、この時の17日に戦死された。

その2月17日、トラック島は米空母イントピレットなど9隻、4万5千トンの戦艦アイオワとニュージャージー、重巡洋艦2隻、駆逐艦4隻を基幹とするスプールアンス中将総指揮の空母機動部隊の空襲を受けた。

トラック島は、日本本島から約3千5百キロの南方、北緯7度の辺りにあって、東西・南北それぞれ110キロに及ぶ大環礁に囲まれた大小十を数える島々で、南洋最大の日本海軍の基地であった。この環礁の中の竹島に零戦64機、春島に陸上攻撃機、艦上爆撃機42機、楓島に剣持氏らの月光9機ほか零戦と艦上攻撃機31機、他の島々にも相当機数の飛行機が配備されていた。

米軍機の空襲は9波に及び、述べ450機を繰り出してきた。翌18日も攻撃を受け、この2日間で延べ1,060機の空襲により、我が方の損害は、撃墜破された飛行機270機、艦船は巡洋艦「那珂」「香取」、駆逐艦「舞風」「追風」など11隻、輸送船32隻の沈没、駆逐艦「時雨」「春雨」、水上機母艦「秋津洲」など11隻が大破した。

軍事施設も格納庫をはじめ弾薬、食料庫などが破壊され、1万3千トンの燃料を詰めた燃料タンク3基も炎上した。トラック島の島々は、いたるところ形を変えてしまい、残る飛行機とてなく、3日間海上は火の海と化して燃えつくした。

◎河内正勝氏（中26）

昭和17年8月、瀬戸内海の柱島（江田島の南方）在泊の軍艦に乗り組み、予科教程卒業前の艦務実習中（軍艦乗組員と起居を共にする）に疾病にかかり（胸部疾患?）、茨城県の霞ヶ浦海軍病院に移送され、入院して治療を受けた。その後やや回復してきたので、群馬県の前橋赤十字病院へ転送された。しかし、その後病状は悪化し、昭和18年9月5日亡くなられた。

◎杉崎栄二氏（中27）

昭和16年10月以降、土浦空での予科教程中に疾病にかかり（胸部疾患?）、兵役免除で除隊、帰郷した。（その後病没された）



### 赤山会秋季例会

旧制中学の集りである赤山会（会長、亀嶋謙氏、第22回）の秋季例会が10月30日（日）市ヶ谷の私学会館で午後一時から開催されました。出席者は大先輩の水尾正二氏（大正15年、第11回）水尾広吉氏（昭和3年、第13回）のご兄弟を始め、渡辺文男氏（昭和2年第12回）小田恕哉氏（昭和6年第16回）山口甚三郎氏（昭和7年第17回）千代国一氏（昭和8年、第18回）見方謙策氏（同）等錚々たる方々23名で、懐古談に華を咲かせ 大団楽の裡に午後三時閉会しました。

### 訃報

○支部幹事、旧中33回卒の中村雅明さんが長い闘病生活のあと7月10日（日）逝去されました。告別式は7月12日。

○支部幹事に就任を依頼し内諾を得ていた旧高女26回卒の佐野幸子さんが10月11日に急逝されました。告別式は10月14日。9月5日に支部旅行会で母校訪問を共にしたのが最後となりました。

謹んで哀悼の意を表し、御冥福をお祈りいたします。

### 編集後記

旧年中は皆様のご支援ご協力を賜り誠にありがとうございました。本年もよろしく願い申し上げます。

昨年もいろいろな事がありました。

- 1.春から夏にかけては米不足。秋は戦後5番目の豊作となり大量の余剰米が発生。
- 2.6月「自民、社会、さきがけ」連立内閣誕生。
- 3.京都、建都1200年
- 4.7月向井千秋さんが日本初の女性宇宙飛行士としてスペースシャトル、コロンビア号で宇宙飛行に参加
- 5.夏は記録的な猛暑で、東京は8月3日、39.1度を記録し、7月はビール、ジュースなど清涼飲料、エアコン等が過去最高の販売量。

6.晴天と猛暑続きで四国・九州地方は、深刻な水不足に陥り給水制限、いつまで続く？

7.東京外国為替の円相場は100円を突破すると、マッタなしで、97～98円台となり不況から抜けきれず、不安のまま就職難が続く。

8.規制緩和によって、夜8時まで営業するデパート、スーパー等多くなり一段と夜型社会へ進行。

9.9月4日、日本で初めて24時間営業出来る「関西国際空港」が開港。

10.10月5日、北海道東方沖地震が発生、マグニチュード8.1を記録し、関東大震災を上回る国内最大級の地震。

☆今年は戦後50年、平和・健康・安全な良い年でありますよう、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

### お願い

広報部では戦後50年にあたり、戦後の物不足食料不足等、苦い思い出やガマンした事、楽しかった事など、ご寄稿をお待ちしております。3月末まで下記へお送り下さいますようお願い申し上げます。

原稿送付先 支部事務局または支部長

☆支部会報“臥龍が丘は緑なり”も本号をもって18号となりました。ファイルに綴じこんでも相当な量感です。

時々 とり出して往時をふり返ってみるのも感慨深いものでしょう。同窓会の動きが、良く分かりますし一冊でも欠けていると気が落ち着きません。先号でも、お知らせ致しましたが、ご希望の方は必要な、ナンバー、冊数などハガキで事務局、又は各幹事まで、お申し込み下さい。在庫の無いものはコピーの上、実費にて（又は寄付納付にて）お送り致します。（広報部）

平成7年1月発行

発行人：新潟県立村松高校同窓会東京支部

広報部

事務局 〒108 東京都港区高輪2-1-24 株寿内

TEL 03-3445-6501

郵便振替 00120-9-136445